|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユースケース名 | | 物理ノードの管理 |
| 目的（ゴール） | | クラウド環境における物理ノードの追加・削除を行い、インフラ構成を柔軟に管理できる状態にする |
| アクター | | クラウド管理者 |
| 開始条件（起動トリガー) | | クラウド管理者が新しい物理ノードの追加または削除を要求する |
| 事前条件 | | 対象となる物理ノードがネットワークに接続されている(追加の場合)  削除対象のノードが登録済みである(削除の場合) |
| 事後条件 | | 物理ノードが管理基盤に追加もしくは削除され、繁栄がされている状態になる |
| 拡張点 | | ノード追加時に自動構成を実施 ノード削除時のリソース解放処理を実施 |
| 関連ユースケース | |  |
| イベントフロ｜ | メインフロー | (追加処理)  1.クラウド管理者がノードの情報を入力  2.システムがノードの状態を検査し、登録処理をする  3.ノードがクラウド基盤に登録され、リソースとして利用可能になる  (削除処理)  a.クラウド管理者が削除対象ノードを選択  b.システムが該当ノードを登録情報から削除  c.ノードがリソースから除外される |
| 代替フロー | 2a. 疎通確認に失敗した場合：  → エラーメッセージを表示し、登録処理を中断  b2.削除時に利用中のリソースがあった場合:  →エラーメッセージを表示し、削除処理を中断 |
| 例外フロー | ノード情報の形式が不正な場合、入力エラーを表示し修正を促す  既に同一ホスト名またはIPのノードが存在する場合は重複エラーを表示 |
| 備考 | |  |